

高性能熱線反射ガラスのご注意



採用にあたってのご注意

- ① 鏡面効果を永く維持するため、膜面は必ず室内側に向けて使用してください。
- ② 十分管理された工程で製作されておりますが、完全な平面ではありませんので、反射映像にゆがみが生じることもあります。
- ③ 反射膜は非常に薄いものでありますので、膜面を、鉄や砂ぼこりなど硬いものでごするとすり傷がつくことがありますのでご注意ください。膜面に傷がつきますと補修できません。
- ④ フロート板ガラスや熱線吸収板ガラス（グリーンラル）と比較して表面反射率が高いので汚れが目立ちます。また反射膜は実用上十分な耐久性を持っていますが、あらゆる条件に絶対的なものではありません。
- ⑤ 膜面は一般にピンホールといわれる小さな点状の膜抜け部のある場合があります。これは製法上生じるもので、これを皆無にすることは大変困難ですので、予めご了承ください。
- ⑥ 工場、屋内プール、浴室、厨房、その他化学物質のガスが発生する場所や湿度が特に高い場所では、膜が劣化しやすいためご使用になれません。
- ⑦ 気密性が高いスパンドレル部などでは、ガラス枠部の副資材などから気散する可塑剤などにより膜面が劣化することがありますのでご注意ください。
- ⑧ 表面反射率が高いので、反射光が周辺の建物や高速道路の自動車に影響することがあります。そのため反射光について事前に検討しておく必要があります。



設計上のご注意

- ① 反射率が高いので反射映像を期待する場合には、サッシの精度および取付け精度を含めて関係者間で事前打ち合わせを必ず行ってください。P.97の「熱線反射ガラスの映像調整施工」をご参照ください。
- ② 法規上、防火戸となる開口部には、高性能熱線反射ガラスと網入板ガラスかファイアレックスを組み合わせた複層ガラス、合わせガラス、もしくはファイアレックス仕様とした高性能熱線反射ガラスか、網入高性能熱線反射ガラスをご使用ください。網入高性能熱線反射ガラスをご使用される場合は、十分な熱割れ検討が必要となります。
- ③ 高性能熱線反射ガラスは、他のガラスと比較して日射吸収率が大きく、熱割れを起こしやすくなりますのでご注意ください。ご使用にあたっては熱割れ計算とそれにに基づく検討が必要となります。
- ④ 高性能熱線反射ガラスはガラスの呼び厚さによって多少色調に差が生じます。また、単板と合わせガラスが隣接する場合には、色調に顕著な差が生じることがあります。特に、反射膜面を合わせガラスの中間膜側にしてお合わせ加工しますと、反射率がかなり低下します。
- ⑤ 高性能熱線反射ガラスを複層ガラスとした場合、日中と夜間や冬季と夏季の温度差による映像のゆがみが目立ちます。
- ⑥ 高性能熱線反射ガラスを強化加工した場合、通常の高性能熱線反射ガラスと比較して映像のゆがみが大きくなります。
- ⑦ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」の「設計上のご注意」をご参照ください。



施工上のご注意

- ① 「高性能熱線反射ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。
- ② 高性能熱線反射ガラスは膜面に養生フィルムを貼らずに出荷しています。汚れや傷などの防止が必要な場合には良質な塩ビフィルムなどで養生してください。
- ③ 施工時は膜面に溶接火花やモルタルなどで傷をつけないよう、またモルタル溶液が付着しないよう養生、保管に注意してください。
- ④ 保管に当たっては、日射や雨水の当たらない通風のよい室内に保管し、汚れを防いでください。
- ⑤ 切断に糸面取りなど研磨加工する場合は、＃120以上の研磨仕上げにしてください。
- ⑥ 弾性シーリング材の使用の際は、膜面に適したプライマーを選択してください。
- ⑦ 不適当なプライマーが付着した場合は、直ちにトルエンなどで除去し、水洗いをしてください。永く放置しますと落ちにくくなります。
- ⑧ スパンドレル部に高性能熱線反射ガラスを施工する場合は、スパンドレル内部の小さなほこりをクリーナーで除去した後、施工を行ってください。
- ⑨ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」の「施工上のご注意」をご参照ください。



使用・メンテナンスのご注意

- ① 鏡面効果を永く維持するためには1ヶ月に1回程度はクリーニングを行ってください。
- ② 膜面側のクリーニングは、ガーゼや柔らかい布による水拭きで行ってください。汚れのひどい場合は、液状中性洗剤を水で希釈した液で汚れを落とし、水洗いをしてください。この場合、材質の硬い清掃器具、磨き粉のような砥粒を含んだ洗剤や酸性、アルカリ性の洗剤は使用しないでください。
- ③ 高性能熱線反射ガラスは膜面を硬いものでごすると、すり傷がつくことがあります。この傷は修復できませんのでご注意ください。ガラスのクリーニングはできるだけ専門業者へご用命ください。
- ④ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」をご参照ください。



熱割れのご注意

- ① ガラス面にカーテンやブラインド、布団、家具などを密着させないでください。また、熱のこもりやすい構造は避けてください。
- ② ガラス面にペンキを塗ったり、紙を貼ったりしないでください。また、膜面の清掃が困難となりますので避けてください。
- ③ 空調装置の吹き出しエアが、直接ガラス面に当たらないようにしてください。
- ④ ガラス面に日射調整フィルムや装飾カラーフィルムなどを貼る場合は、熱割れの恐れがありますので、事前に熱割れの検討を行ってください。また、反射膜面へ貼り付ける場合は、膜面への影響について事前にフィルムメーカーにお問い合わせください。
- ⑤ ガラスエッジ部に傷があると熱割れの原因になりますので、つやはま欠け、ヒビ等のないクリーンカットされたものをご使用ください。
- ⑥ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」の「熱割れに関するご注意」をご参照ください。



網入、線入高性能熱線反射ガラスの施工上のご注意

- ① 施工は、弾性シーリング材による標準施工（バックアップ材は発泡材）としてください。
- ② 方立、無目とガラス面との距離は100mm以下として、クロスシャドーが生じないようにしてください。
- ③ カーテン、ブラインドはガラス面から必ず100mm以上離してください。
- ④ 上記①～③を満たした上で熱割れ計算による確認を実施してください。なお、網入、線入高性能熱線反射ガラスの施工にあたっては、JIS A 4706（サッシ）に従い、網材、線材が錆びないようにしてください。
- ⑤ ガラス切り口に対する水密施工を行い、網入、線入高性能熱線反射ガラスの下部小口の網材、線材が錆びないようにしてください。この場合ガラスの溝形状とガラスの取合いは、フロート板ガラスに準じてください。
- ⑥ 網入、線入高性能熱線反射ガラスは「網入、線入板ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。